

学びの歩みを止めない 学びに休みはない

教職センター長 吉岡 日三雄



教職センターは今年度、新たに特任教員、指導員5人を迎え、6年目のスタートを切りました。昨年度はコロナ感染拡大の影響を受け、学生への支援を停滞させることなく、どのように事業を実施していくかが大きな課題でした。実際に春学期の教育委員会の採用試験説明会や、センター主催の諸会議の中止、また合宿講座を中止し学内での集中講座に変更、さらに基幹事業である論作文指導や面接指導も入構禁止の措置の期間はオンラインでの指導に変更するなど、多くの事業が中止や変更を余儀なくされました。そんな状況下であっても学生への支援を続けていくために、

「何ができるか。今できることをやる」という決意のもと、工夫をしながら事業を継続してきました。緊急事態宣言が解除され、面接指導等が例年のように対面でできるようになった時、学生たちの喜びはひとしおのものでした。

「学びの歩みを止めない。学びに休みはない」。これは今年度新たに設けた教職センターのキャッチフレーズです。この言葉には、学生たちの学びを着実に、しかも継続的に支援し続けること、そして学生の夢や希望の実現に向けて積極的にかかわり、成長への支援をしていこうとする教職センター全職員が熱い思いや決意が込められています。

その方針を打ち出した直後の4月に、教職をめざす2年生の学生が採用試験の相談にきました。今まで不安や悩みを抱えていたのでしょう。話をしているうちに、突然泣き出してしまいました。わけを聞くと、1年生の時はほとんど大学に来ることができず、友達もできないでいたこと、話も誰にも聞いてもらえずにいたことなど、積もる思いを涙ながらに私に語ってくれました。そして、今日話ができたと、話を聴いてもらえたことがとても嬉しく、堪えきれずに涙があふれてきたことを話してくれました。

私は、教職センターが今まで何よりも大切にしてきたことは「これだ」という思いに駆られました。オンラインで授業をすることで学ぶことはできます。つながりもつくれます。しかし、実際にかかわることやふれ合いを通して直接学生の思いや願いに向き合うことや、親身になって話を聴くこと、表情や反応をみて話すこと等、対面ならではの指導のよさを改めて感じた瞬間でした。その学生は帰るときには笑顔で、生き生きとした表情になっていました。

学生たち一人一人は、学ぶことを求めています。教師や学生同士の人のつながりやふれ合いを求めています。そして、学生生活への喜びや楽しみを求めています。私たちは、このような学生の思いや願いを肌で感じ、丁寧を受けとめ、真摯に応えていく必要があります。

教職センターでは、4月から、関係学科の先生方のご協力を得て、コロナ感染対策をとりながら、大学推薦の論作文の指導、採用試験に向けた面接指導、対面での指導やmanabaやZoomを併用して各種の採用試験対策に取り組んでいます。また、昨年春学期は実施できなかった各自治体の教育委員会による教員採用試験説明会や教師塾の説明会をZoomを使って実施しました。1年生から4年生まで大勢の学生が各自治体の採用試験情報を得ようと積極的に参加し、真剣に耳を傾けていました。

教職センターには、毎日のように相談や指導を求めて学生たちが来室しています。今年度も「チーム教職センター」として一人一人の学生への支援や指導に全力を尽くしてまいります。関係学科の先生方の温かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。